

会 議 録

会議の名称	第4回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会
開催日時	令和2年11月12日（木曜日） 午後7時30分から午後8時45分まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室
出席者	（出席委員） 渡邊座長、須加副座長、平塚委員、浅野委員、伊集院委員、伊藤委員、酒井委員、尾林委員、小柳委員、市村委員、篠宮委員、妻屋委員、石坂委員、石井委員、松本委員、松岡委員 （欠席委員） 丸山委員 （事務局） 健康福祉部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下12人
議 題	（1）第3回会議録の確認について （2）西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の素案について
会議資料の名称	（事前送付資料） 資料1 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）素案 ・第3回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会会議録（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

以下、敬称略

## 会 議 内 容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 第3回会議録の確認について

○座長：

第3回会議録の確認を行う。内容について、修正・変更等はないか。

○委員

意見なし。(承認)

#### (2) 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の素案について

○事務局：

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第8期）の素案について資料1に沿って説明。

○委員：

7ページ、「⑥認知症高齢者の変化」とあるが、なぜ認知症に焦点をあてているのかを説明する必要があるのではないか。

また、文字数が多く一般市民が理解しにくいいため、図表を活用したほうが良い。

○事務局：

いただいた意見を踏まえて検討したい。最終的にはイラストや図表を挿入し、見やすい計画にしていきたい。

○委員：

51ページの章タイトルが「第1章 生きがい活動とフレイル予防の推進」となっており、項目立ての2つ目でも「2 フレイル予防の推進」となっている。タイトルが重なっている意味は何か。また、フレイル予防は手段であるため、計画として前面に出すべきは、生きがい活動を通して元気に暮らせる時間を伸ばすということではないか。手段を施策の方向性の柱として前面に出している理由はあるか。

52ページの「2 フレイル予防の推進」の「1 フレイル予防の推進」の施策内容にサポーターの養成とあるが、サポーターにどのような変化や効果があったのかというアウトカムをどのように図るのか。

○事務局：

1つ目の章タイトルと項目タイトルの重複については、章の中で特に進めていく項目を立てているため、章のテーマということで御理解いただきたい。

2つ目については、フレイル予防と介護予防は一体的なものと考えているが、御意見としては介護予防の面が見えないということだと認識している。今後記載を検討したい。

また、施策に対しての目標は次回の会議で示す予定である。

○委員：

生きがい、地域参加という言葉はあるが、それらを阻害している要因である、孤立、閉じこもりという言葉についても入れた方が良いのではないか。フレイルは全体的な虚弱を示すものであるが、計画では身体的な部分が強調されている印象である。身体、精神、社会性というカテゴリーで分かれていると良いのではないか。

○委員：

他計画との連携も考慮した場合、フレイルが強調されることに違和感がある。

また、コロナ禍における施策を加える工夫が必要ではないか。

在宅療養、認知症の書きぶりが、「支援・援助」に寄っている印象がある。一方的に支援されるだけでない存在として、別の表現を検討した方が良いのではないか。

○事務局：

新型コロナウイルス感染症は、触れざるを得ないと考えている。他市町村の策定状況などを参考にしているが、具体的な取組はまだ見えてこない。基本的な考え方や計画の前提の部分で触れて、具体的な取組については今後検討していくという方向性を記載したいと考えている。

○事務局：

フレイルの記載については御意見を踏まえて検討したい。

○委員：

52 ページの「1 健康づくりの推進」の「6 特定健康診査、特定保健指導等の実施」の施策内容について、「受診率の向上」など数で評価できる内容にするべきではないか。全体を通してビジョン達成型の計画を目指しているのに、施策では達成する目標やビジョンが見えない。

61 ページの「第4章 在宅療養体制の充実」は看取りまでいく間に必要な介護の知識や技術を市民へ向けて普及・啓発することも必要ではないか。アンケートやインタビュー、ヒアリングの結果からニーズに応える項目を加えたら良いのではないか。

○事務局：

御意見を踏まえ、事務局で検討していきたい。

○委員：

64 ページの「3 いざというときの仕組みづくり」の3「災害時避難行動要支援者の支援体制の整備」の施策内容の文中で「警察、消防、地域包括センターなどで情報共有を図り」とあるが、警察や消防は災害時には本部の対応となるため、各被災者の支援ができない。そのため、身近にいる「民生委員、自治会、町内会」に変更することはできないか。

○事務局：

危機管理の担当部署とも調整して検討したい。

○委員：

ケアマネ担当者や緊急連絡先、主治医、延命治療の希望などの情報を容器に入れて利用者の自宅冷蔵庫に保管する「救急医療情報キット」の配布が進んでいる。災害時にも活用が期待されているため、その内容を追加することは出来ないか。

○事務局：

どこに記載するか含めて検討したい。

○委員：

介護予防については、各課等の連携で一体的に取り組むことが必要ではないか。現状は、手上げ方式でフレイルチェックに関心がある人が参加している。地域包括支援センターが把握している虚弱に近い人や、フレイルチェックをすれば前向きに元気になるのではないかと  
いう人がいても、日程や場所が合わなければ参加しない。

○委員：

各課の取組の目標や目的に違いがあり、それぞれの機能がバラバラに行われているから、それを一元化したいという御意見か。

○委員：

西東京市の良い取組と地域包括支援センターが把握している虚弱になりそうな高齢者を  
つなげたい。サービス利用になる手前にいる人たちに対する施策が必要である。

○委員：

この取組によって地域包括支援センターの業務の負担が増えるのではないか。

○委員：

この業務が増えるというよりも、高齢者が生きがいを持って元気に暮らすことで、結果的に地域包括支援センターに相談が減ることの方が良い。

○委員：

西東京市が培ってきた取組を通してフォローされている人はいると思うが、現場レベルでは様々な状況や課題があると思う。この計画は全体的な方向性を決めるものだと思う。一体的な取組というのは計画の次の段階で話し合う内容ではないか。

### 3 その他

○事務局：

第5回会議の日程について説明

### 4 閉会